

地域活動は特別なことではなく “当たり前のこと”



男女共同
参画社会づくり

いきいき
ナイスパーソン

いきいきナイスパーソン

高野 登さん (西福沢)

町の男女共同参画社会づくりの取り組みにおいて「いきいきナイスパーソン」に選ばれた高野登さん。登さんは、「私は、いきいきナイスパーソンに選ばれるような立場の人間ではない」神妙な面持ちでいきいきナイスパーソンに選ばれたことへの感想を述べました。

しかし、登さんはこれまで、福沢自治会長として3期（6年）にわたり自治会発展のために尽力し、それだけでなく、福沢グラウンドゴルフ会の立ち上げや福沢福寿会（老人会クラブ）の地区班長を務めるなど、さまざまな形で地域に貢献してきました。

地域の中で積極的に活動している高野さんですが、地域活動のきっかけは「楽しみたい」という思いだったと話します。

「グラウンドゴルフ会を立ち上げたのは、廃校になった福沢小学校の校庭を管理することも目的の一つでしたが、自分自身が楽しむことが出来て、地区のコミュニティの一つになればと思ったことがきっかけでした。今では、会員が



△アルバムを見てこれまでの活動を振り返ります。



△仲間とグラウンドゴルフを楽しむ登さん。

25名になり、仲間たちとわいわい活動しています。会員の中には山木屋地区の方もいて、地区を超えたコミュニティの一つになっています。自治会長や福沢福寿会の活動も何か自分にできることがないかと思ったことがきっかけで、たくさんの方々に協力してもらい活動してくることが出来ました」と笑顔で話します。

そんな登さんですが、今年初めに妻の和子さんが体調を崩し、介護に携わるようになりました。

「妻が体調を崩した時は戸惑いもありました。実際に介護に携わり、介護する人の苦しみや大変さを身に染みて感じました。しかし、妻はこれまで、食事や洗濯などの家事をはじめ、さまざまな形でサポートしてくれました。これまで、サポートして貰った分、今度は全力でサポートしたい。今は、デイサービスやリハビリなども行い順調に回復しています。また、今年で結婚51年目を迎えました。これからはお互いの意見を尊重し、サポートし合って生活していきたい」と話します。話を聞いていた

【男女共同参画社会づくり】

男 女が共にその能力や可能性を存分に発揮できる社会を目指して、町や企業、そして、皆さん一人ひとりが行う取り組みが「男女共同参画社会づくり」です。町では、この取り組みを進めるために、推薦のあった方々の中から、いきいきと助け合う模範となる夫婦を「ナイス・パートナー」として、いきいきと輝く個人を「ナイス・パーソン」、家族を「ナイス・ファミリー」として顕彰し紹介しています。



和子さんの表情は、照れながらもほほえんでいました。

登さんに、介護しながら地域活動を続けている理由を聞くと、「そうですね。自治会長として長いこと活動してきましたし、活動が生活の一部になっています。地域活動は、私にとって特別なことではなく、『当たり前のこと』なんです。それに、福沢地区の方々とは協力的で色々相談にものってくれます。活動しやすい環境が整っていて、地域が一丸となって福沢地区のために活動しています。何より活動することが好きで、楽しいからですね。体を動かす

ことが健康にも繋がっています。」と穏やかな表情で答えてくれました。最後に今年80歳を迎えた登さんに元気の秘訣を聞くと、「たくさんの人と会って交流することやグラウンドゴルフで体を動かすことですね。あと、お酒を飲むことだね」と笑顔で話してくれました。

終始、笑顔でインタビューに応じてくださった登さん。元気の秘訣は、素敵な笑顔と温かい人柄にあるのかもしれないですね。

